映画『ハッピーアワー』編集ラッシュ公開上映

「KIITO アーティスト・イン・レジデンス 2013『即興演技ワークショップ in Kobe』」の成果発表から１年が経った。
ワークショップ参加者をキャストとし、KIITOや神戸市内を主なロケ地として、2014年５月から12月まで、
８ヶ月にわたる映画撮影が終了したところだ。
「編集ラッシュ公開上映*」では、「即興演技ワークショップ」からスタートした濱口竜介監督作品『ハッピーアワー』が、
未完成の状態ではあるが、一篇の物語をもつ映像としてはじめて一般に提示される。
撮影された映像素材を、脚本に添う形で編集したものを上映する。
完成映画とは異なり、カットがつなぎ合わされた、未整音・未色調整・クレジットなしの状態での上映である。

＊編集ラッシュとは
撮影した画面の内容をチェックするため、映像素材を試写することをラッシュといい、ある程度編集作業を経た映像を試写することを編集ラッシュという。
一般的な映画では、監督を含めたスタッフと希望するキャストのみで行われる。

監督ノート ―― 濱口竜介

『BRIDES』という仮題の下に撮影されたこの映画について、知っている人は少ないと思うが、結果的に『ハッピーアワー』という少し間抜けなタイトルに落ち着いた。その経緯も含め、書いてみたい。

物語は「BRIDES（花嫁たち）」という仮題の示す通り、既婚女性４人を主人公として展開する。ただ、約８ヶ月にわたる撮影の中で、脚本の改稿を状況に応じて頻繁に行なった。改稿及びでき上がった脚本の特質は、この映画制作の特質そのものに由来している。「即興演技ワークショップ in Kobe」の参加者であり、メインキャストとなった４人の女性をはじめ、演者の多くは演技経験をまったく持たなかった。脚本は彼女らの演技を支え、助けるため、彼女らが演じる登場人物たちの生活や、できごとの推移、会話の発展の「一部始終」が、できうる限り詳細に書き込まれたものになっていった。結果的に撮影稿となった第７稿はページ数から慣習的に計算したところ６時間弱の長さとなった。

その結果、脚本というテキストに書き込まれたのはある種の「生」であるという実感を持っている。それは当初の射程を超えた。例えば結婚制度への疑問を突きつけるのでも、結婚生活の不毛を見つめるのでもない、単なる、しかし厚みのある生がそこにはあるような気がした。そして、そのテキストを生きるようにして、演者たちは演じ、カメラはそれを捉えた。ある日思いついた『ハッピーアワー』というタイトルは、そこに含意される楽天性や、「ごく短い時間」というニュアンスがよりよく物語の主題と重なるように思えた。加えて言うなら、それは何より我々が撮影しながら過ごした時間を想起させた。この映画にふさわしいタイトルと感じている。

現時点（2015年１月）では「編集ラッシュ」版から多くの部分の削除／組替が行なわれることによって、一般に流通し易い３時間弱の最終版ができ上がるものと考えている。ただ、ラッシュをしていて感じるのは、結局のところ写し取られてしまった「生」の手触りであって、それに強く誘惑されている。最終版がどのようなものになるのか、現時点ではまったく見えない。ただ、この６時間弱の「編集ラッシュ」版がこの映画の最も魅力的な形態である、という可能性は十分にある。それを観る唯一の機会になるかも知れない。是非、ご覧いただきたい。

KIITO

デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）
〒651-0082 神戸市中央区小野浜町1-4
TEL：078-325-2235
FAX：078-325-2230
E-MAIL：info@kiito.jp
WEB：http://kiito.jp/

アクセス
阪神神戸三宮駅、阪急神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より南へ 徒歩20分
神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分
ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

映画

『ハッピーアワー』編集ラッシュ公開上映

濱口竜介監督作品

2015. 2.21 Sat. 13:00−19:00　アフタートーク 19:00−20:00

しあわせな時間のおわりと、はじまり。

KIITO
アーティスト・
イン・
レジデンス
2014
濱口竜介

映画

ハッピーアワー

編集ラッシュ公開上映

エグゼクティヴ・プロデューサー ― 高田聡、原田将、徳山勝巳
プロデューサー ― 岡本英之、野原位
監督 ― 濱口竜介
脚本 ― はたのこうぼう（濱口竜介、野原位、高橋知由）
撮影 ― 北川喜雄
照明 ― 秋山恵二郎
録音 ― 松野泉
助監督 ― 斗内秀和、高野徹

『ハッピーアワー』二〇一五年 秋公開予定

2015年 2月 21日［土］

13:00－19:00

途中休憩あり　途中入退出自由
※終了時間は前後する可能性があります。

アフタートーク 19:00－20:00

濱口竜介、港 千尋

モデレーター：芹沢高志

場所　デザイン・クリエイティブセンター神戸
1F　KIITO ホール

定員　80名（先着順）
入場無料　要申し込み

申し込み　http://kiito.jp/
ウェブサイトからお申し込みください。
※申し込みは 2 月 6 日［金］11:00 から開始します。

主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸

濱口竜介　映画監督

1978 年、神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科の修了制作『PASSION』がサン・セバスチャン国際映画祭や東京フィルメックスに出品され高い評価を得る。その後も日韓共同製作『THE DEPTHS』(2010) がフィルメックスに出品、東日本大震災の被災者へのインタビューから成る『なみのおと』『なみのこえ』、東北地方の民話の記録『うたうひと』(2011～ 2013／共同監督：酒井耕)、4 時間を越える長編『親密さ』(2012)、染谷将太を主演に迎えた『不気味なものの肌に触れる』を監督するなど、地域やジャンルをまたいだ精力的な制作活動を続けている。

港 千尋　写真家／映像人類学者

1960 年神奈川県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授。あいちトリエンナーレ 2016 芸術監督。群衆や記憶など文明論的テーマをもちつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーション等、幅広い活動を続けている。著作『記憶―創造と想起の力』(講談社／96 年) でサントリー学芸賞、展覧会「市民の色」で伊奈信男賞を受賞。2006 年釜山ビエンナーレ共同キュレーター、2012 年台北ビエンナーレ共同キュレーター、2007 年ヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館コミッショナー。

芹沢高志　デザイン・クリエイティブセンター神戸 センター長

1951 年東京生まれ。89 年に P3 art and environment を開設。99 年までは東長寺境内地下の講堂をベースに、その後は場所を特定せずに、さまざまなアート、環境関係のプロジェクトを展開している。2014 年より東長寺対面のビルにプロジェクトスペースを新設。帯広競馬場で開かれたとかち国際現代アート展「デメーテル」総合ディレクター (02年)、横浜トリエンナーレ 2005 キュレーター、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合ディレクター (09 年、12 年、15 年) などを務める。2014 年、さいたまトリエンナーレ 2016 のディレクターに就任。